

公 益 社 団 法 人

福岡県作業療法協会会報

第123号 平成28年4月15日発行

(事務局)

〒802-0044 北九州市小倉北区熊本1丁目9-1 ONE OFF第2ビル101号

T E L 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 許山 勝弘

ホームページアドレス : <http://www.fuku-ot.org/>



特集：CCSの概念を取り入れた作業療法臨床実習への取り組み
—臨床と教育の連携が大切—

目次

巻頭言：これからの街づくり考	・・・ 1
公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長 志井田 太一	
会長行動	・・・ 1
特集：CCSの概念を取り入れた作業療法臨床実習への取り組み ― 臨床と教育の連携が大切 ― 柳川リハビリテーション病院 松野 豊	・・・ 2
理事会議事録	・・・ 7
定期社員総会議事録	・・・ 14
各部・委員会からのお知らせ	・・・ 15
平成28年度九州作業療法士会長会主催合同研修会出張報告書： 社会福祉法人 学而会 サンシャインセンター 黒木 勝仁	・・・ 18
臨床指導者研修出張報告書： 聖マリアヘルスケアセンターリハビリテーション室 前田 亮介	・・・ 19
Occupation： 八幡厚生病院 神崎 朋子	・・・ 20
リレーエッセイ： 社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院 石田真紀子 南 厚希 社会医療法人財団池友会 香椎丘リハビリテーション病院 清水 慎吾	・・・ 21
会員動向調査	・・・ 23

巻 頭 言 これからの街づくり考

公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長 志井田 太一

中世から近代にかけて、日本の町は生業に基づいて形成されていました。農業を営む村が在郷町の周囲にあり、魚を売る人たちが住む「魚町」、金属加工職人が住む「鍛冶町」、貨幣を鑄造する職人が住む「銀座（町）」などが形成され、そこに住んでいる人々は生活全般にわたってお互いに助け合いながら生活を送っていたことと思います。振り返って現代では、昔のように家賃が安く同じ職場の家族が助け合って住む社宅より、少々家賃が高くても、「買い物の利便性」、「移動の利便性」、「子どもの教育環境」、「病院に近くにあること」、「職場とのアクセス」などで優先順位をつけ、最大公約数で住まいを決定しているようです。そうして選んだ地域では、「子ども会の活動」や「地域行事」などその地域でどのような人と人との交流があるのかなどは、ほとんど考慮する因子には入っていないのではないかと思います。現代では、昭和の時代のキャッチフレーズにあった「遠くの親戚よりも、近くの他人」が頼りになる地域は少なくなったような気がします。そして、困った時には自分で何とかする（「自助」）か、それでも解決できない場合は社会保障（「共助」）や行政（「公助」）に頼るかの二者択一を迫られ、これらで解決できない場合はその人と家族が行き詰ってしまうような現象が容易に起きていることが想像できます。今まで経験してきたことのない人口動態の変化として、今後何十年かは人口減少が進み、高齢者の割合が高くなり、子どもの割合と生産年齢の割合が減少していくことが予測されています。このような社会の実態に応じた、新しい街づくりに目を向けることが緊急の課題であり、具体的な方策をすぐに実行に移さなければならない時代となっています。国民一人ひとりが、高齢となっても障害をもっても家庭内や地域社会で「やりたいこと」や「やれること」を見つけ、それに基づいた役割をもち、周りの人も皆で助け合う「互助」の仕組みを強める土壌づくりを意識する必要があると感じます。現在の生活水準を落とすことには大きな抵抗があり、経済的な発展も生活の基盤となるとは思いますが、今は一人ひとりが、いつまでも生き活きと暮らすことができるような真の幸せについて、もう一度考え直すよい機会であるとも思います。自分がやりたいことは何であるか、地域住民が一丸となってやれることは何なのか、それを達成するためには何をすればよいかなどについて、みんなで知恵を出し合って生活を楽しめる住みやすい街づくり、地域づくりに参画していきましょう。作業療法を生業としている私たちこそ、求められていることやできることを探して実効性のあるアイデアを実行に移しましょう。

会長行動 （平成28年1月～3月）

1. 11. OT・PT・STの介護予防指導者養成研修会 久留米会場 出席 場所：久留米市民会館
1. 16. 一般社団法人日本作業療法士協会 47委員会 出席
場所：TKP神田駅前ビジネスセンター
1. 23. OT・PT・STの介護予防指導者養成研修会 北九州会場 出席 場所：九州栄養福祉大学
1. 28. 北九州市すこやか住宅推進協議会 建築・福祉新春情報交換交流会
場所：小倉リーセントホテル
1. 30. 31. 平成27年度第3回九州支部会 出席 場所：九州中央リハビリテーション学院
2. 1. 平成27年度第6回福岡県作業療法協会理事会 出席 場所：良想夢スポーツガーデン
2. 5. 一般社団法人日本作業療法士協会 地域包括ケアシステム推進委員会 出席
場所：一般社団法人日本作業療法士協会 事務所
2. 6. 福岡県三士会合同訪問リハ実務者研修会 出席 場所：福岡和白リハビリテーション学院
2. 11. OT・PT・STの介護予防指導者養成研修会 福岡会場 出席 場所：福岡国際会議場
2. 13. 第20回福岡県作業療法学会 参加
14. 平成28年度公益社団法人福岡県作業療法予算総会 出席 場所：九州文芸館（筑後市）
2. 20. 一般社団法人 福岡県精神保健福祉士会20周年記念講演会・祝賀会 出席
場所：アークロイヤルホテル福岡天神
3. 5. 平成27年度専門職向け地域ケア会議研修 「現状と課題」報告 場所：電気ビル 共創館
3. 12. 一般社団法人熊本県作業療法士会20周年記念式典・祝賀会 出席
場所：ホテルニューオータニ熊本
3. 21. 全国PT・OT・ST士会長会議 場所：TKP田町カンファレンスセンター

CCSの概念を取り入れた作業療法臨床実習への取り組み

—臨床と教育の連携が大切—

柳川リハビリテーション病院 松野 豊

【はじめに】

Clinical clerkship (CCS) の導入においては、最初からすんなりと受け入れられたわけではなかった。2007年に、CCSの話を持ちかけられた時には「模倣」という言葉に馴染めず、指導の要となっていたレポートについては脱レポート、OTSを多数受け入れなければならないという負のイメージが先行していたこと覚えている。しかし、それと同じくらい、この話を持ちかけて下さった恩師が臨床実習に教員が積極的に参画し、「お任せ実習」にならないようにしたい、「我々は臨床実習を頼む立場にあるが、OTSの教育については対等な立場でありたい」という言葉が印象に残った。まだまだ未熟者の私に対し、「教育については対等な立場」と言っていたことに、嬉しさと誇らしさを抱いた。恩師は以前から、実習施設訪問では、臨床実習指導者 (SV) の意見には頭を下げて対応し、実習施設確保といった業務的な使命感強いこと、SVと教員間の連携不足が課題であると常々口にされていた。

それから、6年が経ち、2013年に現在当グループで行っている「CCSの概念を取り入れた臨床実習」が開始となり3年が経過した。この実習形態を作り上げるためにきっかけを頂いてから今年で10年目となる。課題を残しつつも、臨床と教育が連携し少しずつ事を進めている。

今回は当グループの作業療法部門でCCSをどのように捉え、作業療法ならではの臨床実習形態を作り上げるために行った、臨床と教育の取り組みについて話させて頂きたい。

【CCSについて】

CCSは日本語で診療参加型臨床実習と呼ばれ医学教育の臨床実習形態である。医学教育は①臨床見学型臨床実習②模擬臨床型臨床実習③診療参加型臨床実習で構成されている。①臨床見学型臨床実習：医学生は医療行為を見学するのみで、直接対象者と関わらない。②模擬臨床型臨床実習：実際に対象者と接して医療行為を行うが、これは実際の医療行為の枠外で、対象者の協力のもとに特別に設定されたもの。その行為は正式にカルテに記載されない。③診療参加型臨床実習：学生は実際に対象者の診療チームの一員として、指導医のもとで「許容された一定の医療行為」を行なう。その行為は正式のカルテに記載される。実習形態が見学型→参加型へと移行されていること、対象者との関わりも直接関わらない→対象者の協力のもと特別に設定された状況→診療に参加へと段階

づけがなされている。CCSにおいて許容された一定の医療行為を行なうというこの一文について我々はよく考えなければならない。

過去の医師の臨床実習はインターシップと呼ばれ、対象者に対し医療さながらの行為を指導医のもとに行っていた。しかし、「医師法第17条 医師でなければ、医業をなしてはならない」との法規制下に抵触するとして、違法性を理由にインターシップは消えていった。その後外来実習・病棟実習という見学主体の実習となるが、医学生の実践力不足が問題となった。そこで、すでに十分な基礎教育を終えた学生に対し、教員がその裁量のもとで適当と信じる「ある程度の医療行為」を、自分の直接監督下で、患者の許可を得て実習させても違法性を阻却するとの見解が示された。これを受けて、CCSが医学教育に取り入れられていったとされている。

法的解釈やコンプライアンスはその時代によって変化していく。従来の実習方法により、無資格のOTSが対象者を担当するという点について、医学部で起こったような学生の法的身分が問題視された場合、対象となるのはSVと実習施設である。臨床の現場は日々変化しており、対象者の権利意識と利潤優先の考え方が強くなった中で、SVや実習施設を守りながらも臨床実習を可能にするコンプライアンス遵守のための実習形態を、臨床と教育が協力し作り上げていく必要があると考える。

【作業療法を取り巻く環境の変化】

作業療法士を取り巻く臨床の環境は変化し続けている。疾患別リハビリテーション（疾患別リハ）により、高度な専門性を求められ、社会情勢に伴う保険政策の拡充により、領域は広がりを見せている。保険診療点数は下がり、在院日数の短縮化を求められ、単位制の導入によりノルマが発生している。また、書類や診療外業務も増加し、臨床における作業療法士の負担は増える一方である。そのような中で、対象者の権利意識の高まりと日々のスケジュールの過密さから、OTSが担当する事に対して拒否的な反応を示されることも少なくない。

臨床実習を行う上で、最も重要なことは対象者の利益が優先されていることであり、OTSの関わりによって治療の質や量が低下することがあってはならない。

そのため、臨床実習の形態はよりOTSだけでなく、対象者やセラピストに対する負担が少なく、

効率的で質の高い事が望まれる。私見となるが、OTSをリハチームの一員として参加させる事で、より質・量ともに高い診療を提供できないか？と常に考えている。

【作業療法臨床実習教育の課題】

現在の作業療法教育では、それぞれの専門学校や大学において、教育理念や特色が異なり、臨床実習の最低到達基準も相違がある。さらに、実習施設によっても違いがあり、個々のSVの考え方が大きな影響を与えている。セラピストになりたての頃は、私自身も学校の実習の手引きや協会が作成している「作業療法 臨床実習の手引き」を真剣に読んだことなどなかった。特殊な教育もなく、経験年数が4年目になるとSVとなっていた。従来型の実習形態で行っていた時の私の指導は、自分自身が受けてきた臨床実習指導のイメージと臨床で受けた教育の経験を頼りに指導をしていた。自分の中にある知識・技術をできる限り伝え、OTSの能力をどうにかして引っ張り上げようというものであった。今考えてみるとOTSにかなり多くのことを要求し、きつく当たっていたように思う。

臨床家の中には優れた教育者も存在するが、そのほとんどは教育のスペシャリストではない。そのため、OTSが臨床実習に出るまでの数年間教育してきた教員と実習開始前に教育方針や到達目標について十分にディスカッションすることが必要であると感じている。

また、同時に臨床実習教育者（CE：Clinical educator）の育成が重要である。

現在、日本作業療法協会が主催する臨床実習指導者研修（全国で年2回開催）が行われており、更に九州では2015年から県士会主催で臨床実習指導者研修を開催し、九州は受講しやすい環境にあるため、是非とも参加していただきたい。加えて、臨床実習の手引き【第4版】を読んでいただきたい。臨床実習の手引きの中で、臨床実習における最低到達基準は「一般的な特性を呈する事例に対して、作業療法実践過程（初期評価、計画立案、治療実施、再評価）において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し、模倣実践できる。作業療法士として自覚をもった行動をとる（ことかてきる）」となっている。すでに模倣という言葉が使用されており、CCSの概念の一部が取り入れられていることに気づかれていた方も多くおられるのではないと思う。

【CCSと従来型実習】

全くもってこれまで従来型の実習が行われていたことを否定する気持ちはない。私自身その従来型の実習形態で教育を受け、SVの知識・技術に感動を覚え、必死に食らいつきながら勉強し、臨床

の世界が見えてくる楽しさ・うれしさを感じることができた。しかし、先ほども述べたように、リハを取り巻く環境も変化してきている。従来良かったものが、これからはずっと良いわけではなく、その時代に合わせて変化していくが必要ではないかと思う。しかし、CCSがそのまま作業療法臨床実習に適応されるか？という点、医学部は6年で3段階の実習形態へて、さらに国家資格を取得した後に2年間の研修期間があるという、全体のシステムの違いがあるため、医学部のCCSをそのまま持ってくることは難しい。しかし、学生の法的身分の問題から、OTSやCE・実習施設を守ること、また対象者の権利の問題からもCCSの概念は取り入れていくが必要となってきたのではないと思われる。加えて、作業療法士として最低限どのような「技能」を伝えるべきか？を明確にしていくことも重要であると考え。

そのため、従来型の実習形態のメリットを引き継ぎつつ、CCSの概念を取り入れた「ハイブリッド（混合型）な作業療法の臨床実習形態」を、臨床と教育が協力して作り上げていく必要があると考えている。

【当グループでの臨床実習への取り組み】

当グループでは2013年より国際医療福祉大学（当グループ大学）が推奨しているCCSの概念を取り入れた実習形態「実践参加型臨床実習」を行っている。実践参加型臨床実習とは、実習生はリハビリテーションチームの一員として参加し、CEの作業療法実践の補助をするとともに、臨床実習指導者の助言・指導のもと、許容範囲の作業療法アプローチを体験する。このことで、作業療法士となるために必要な知識・技術・態度を学習するという実習形態である。

この実習形態を実践する上で最も重要なことは臨床と教育の連携である。臨学共同臨床教育システムの基本構造を図1で示す。OTS3～4名に対して、教員が1名ユニットに入っている。もう一つ

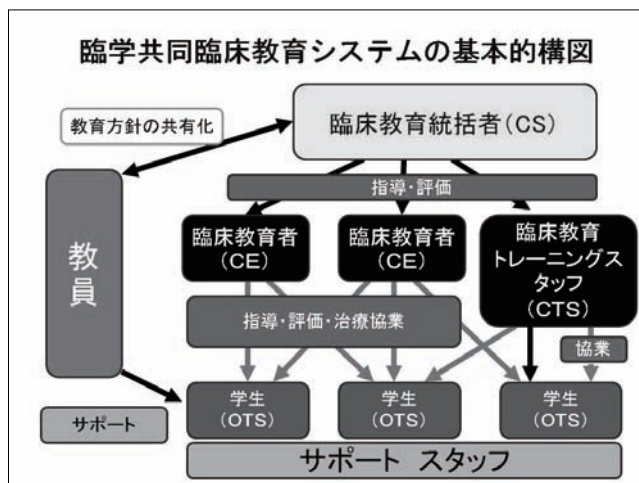


図1

ない」となれば、実体験のないOTSに言葉で理解させていくことはかなり困難である。国家試験に合格した新人でさえ2週間で対象者の状況を把握することは難しい、OTSにとって更に難しいというのは当たり前の事である。そのため、「できることから」参加し、体験させていくことが重要であると考え。そのような臨床体験も一人からだけではなく複数の対象者から得られることが大切である。

【レポート作成について】

臨床実習においてCE・OTSともに負担となるのがレポート指導である。レポートによる当グループの苦悩は、①レポートを読むだけでも時間がかかる上に、指導にも時間がかかり、業務はその後に行うことになる②言ったのに理解していない。忘れてしまっているといったやり取りが毎日続くことで、お互いの心的ストレスが大きくなる③OTSが体調不良になると、CEも気がかりで心的負担となるなどであった。特に問題となっていたのは、初期評価が長期化し、対象者の状態が変化しているにも関わらず、過去の状態を紙面上にて繰り返し検討していることであった。CCSという「レポートを作成しないため、実習の負担が軽減する」というイメージを持っている人が多い。しかし、本当にレポートをなくして良いのだろうか？レポートは作業療法プロセスや問題の統合と解釈という作業療法の臨床実習における重要な部分を担ってきた。また、臨床に出るとケーススタディや報告書などで、対象者の状況をまとめて報告するというスキルが要求される。そのため、当グループの実習では、初期評価：A4一枚程度、最終評価：A3一枚程度のレポート作成を行っている。

当グループ大学ではレポートを教員側で指導するという方法を提唱していた。臨床側はレポートを作成する上で、できる限り通常業務の流れの中で、対象者への理解を深めることができないだろうか？過去の振り返りではなく、対象者の今や未

来に目を向けたディスカッションをより多くできないだろうか？と考えていた。その結果、図4に示すような教員が参画するレポートの作成方法が生まれた。OTSは週に一回半日、学校へ行きレポート指導を受ける。教員はCEが作成したA4一枚程度のレポートを確認しながら、紙面上のディスカッションで書式や書き方といった基本的指導を中心に行う。同時に、OTSの理解度の確認と不足情報や疑問の明確化を行う。OTSは何が足りない情報で、何が自身の疑問なのかを教員によって明確化され、その内容をCEに質問し臨床の中で解決していく。CEはレポートを見るが、直接指導はしない。CSは2週間に1回程度OTS複数人と臨床的なディスカッションを行う。その情報をCE・教員とともに共有している。

対象者の初期評価ではCEは新人に申し送ると同様の作業を行い、カルテ・報告書など全ての情報をOTSと共有する。これは、対象者の早く対象者のことを理解してもらい協業するためである。そのため、対象者に必要な評価は行うが、実習のための評価は行わない。初期評価は基本1週間・長くとも2週間で終了する。先ほども述べたが、国家試験を合格した新人でも手取り足取り教えて申し送りしても、2週間で対象者を理解し、プログラムを立てることは容易ではない。OTSはその一つ手前のレベルで良いのではないかと考えている。回復期の対象者も2週間と同じ状況にあることはなく、常に変化している。初期評価にこだわるよりも、治療・支援と評価をその時々で行い、経過を追う中で理解し、プログラムを変更していけることが重要であると考え。対象者の今と未来に目を向けたディスカッション、プログラム作成とその実行にCE・OTSには力を費やしてもらいたい。

ディスカッションにおいてCEには、重要なことをまとめて話すこと、OTSの理解に合わせた内容であることを心がけ、時間を30分以内とするように指導している。以前OTSが私に「昨日〇〇先生（CE）に指導されたのですが、頭が真っ白になって口がパクパク動いているようにしか見え、内容がわからなくなってしまいました」と曇った表情で伝えにきたことがあった。CEの指導に熱が入り一方的に話し続けるというのは、時間をかけた割に理解が得られないことが多い。時間的な制約を設けることで、CEはより重要なことをまとめて話すことを意識するようになる。

【現状と課題】

実践参加型臨床実習を取り入れたことによって、最も大きかったのは夕方のレポート指導の時間が短縮し、CEの身体的な負担が軽減したことであった。また、OTSがCEの担当する対象者の情報ある程度全般的に把握していること、スキルチェックリストの活用により、できることが増え

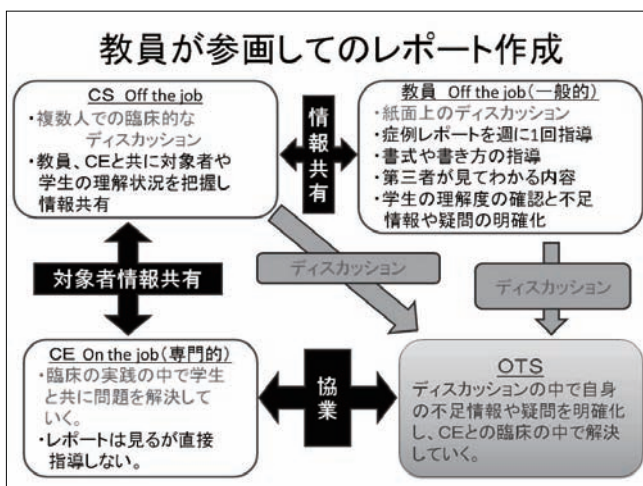


図4

ていることで、実習の後半ではOTSを助手として協業できるようになってきた。最近ではCEから「OTSがいてくれと助かります」という声も聞かれるようになってきた。この協業という考え方により、対象者に「OTSが担当します」ではなく、「私の助手として診療に参加します」と伝えられることで、対象者の心的負担の軽減にも繋がっている。

課題としては、スキルチェックリストの使用に慣れないため、CEによってはOTSの経験が不足することがある。OTSの対象者理解を深めていたのは、夕方のレポート作成時の指導であった。そのため、協業の中で診療中にどのように伝えたら良いのか？という部分は非常に難しい。CEが臨床という世界をOTSが見るための媒介者となるためには経験が必要である。当グループでも全体的若年化により、指導力の問題は発生している。しかし、このことはマイナスばかりではない。OTSはCSにCEが教育される姿を見ることで、自身の近い将来のビジョンを持ちやすいのではないかと考えている。

【まとめ】

現在では当グループ大学と専門学校2校と連携し、同じ実習形態で行っている。

医学部と作業療法の教育の違いにより、CCSがそのまま適応できるシステムではないと考えている。また、新しいシステムを入れたからといって良い方向に向かうとも限らない。教育システムも道具であり、教育者が正しく理解し、必要であれば手を加え、使えるものにしていかなければならないと考えている。

そのためには、臨床と教育がお互いを理解し、連携して臨床実習をより良い方向へ向かうように考え続けることが重要であろうと考える。

【文 献】

中川法一（編）：セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第2版。三輪書店：7-9, 12-19, 2013

日本作業療法士協会：作業療法臨床実習の手引き 第4版：14-17, 2010

丹羽敦，他：新しい臨床実習形態の提案。OTジャーナル 46(10)：1342-1347, 2012

松野豊，他：CCSと症例基盤型臨床実習の比較検討-臨床実習指導者へのアンケート調査を用いて。日本作業療法学会抄録集 49：27, 2015



平成27年度 第5回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成27年12月7日(月) 19時00分～23時00分
II. 場所 : 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 19名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 佐藤稔,
大田登志樹, 平岡敏幸, 深町晃次, 榎本孝史, 田中真純,
玉野和男, 濱本孝弘, 許山勝弘, 有久勝彦, 沖雄二, 轟木健市,
福田裕樹, 手島智康(以上, 理事)
原口健三(以上, 監事)
藤崎実知子, 鐘ヶ江秀俊(以上, 事務局)
欠席者氏名 : 椋学美(以上, 理事) 田邊慎一(以上, 事務局) 吉田秀樹(以上, 監事) (敬称略)
VI. 審議事項

1. 福岡県OT・PT・ST介護予防指導者養成研修会講師の承認について(志井田代表理事)

→承認

以下の講師依頼について報告.

村井千賀氏(厚生労働省老健局老人保健課 課長補佐)
宮永敬市氏(北九州市保健福祉局健康推進課健康づくり担当係長)
県内の介護予防事業の現状報告については市町村事業担当者

2. 第2回現職者共通研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

→承認

以下の講師依頼について報告.

鐘ヶ江秀俊氏(療養介護事業所ひなた家)
伊藤晃一氏(介護老人保健施設きんもくせい)
手島智康氏(株式会社らそうむ)
志井田太一氏(福岡県作業療法協会代表理事)
青山克実氏(麻生リハビリテーション大学校)
粕井剛士氏(健康リハビリテーション内田病院)
久野真矢氏(帝京大学福岡医療技術学部)
永田敬生氏(福岡医健専門学校)
大丸幸氏(九州栄養福祉大学リハビリテーション学部)

3. 第20回福岡県作業療法学会記念イベント講師の承認について(有久学術部担当理事)

→承認

以下の講師依頼について報告.

田中崇氏(株式会社LikeLab代表取締役)
おきなまさひと氏(ビジョナリアル共同代表)
松尾博子氏(gocochi代表 社会福祉士)
轟木健市氏(福岡県作業療法協会筑後ブロック担当理事)

4. 福岡ブロック研修会講師の承認について(志井田代表理事)

→承認

福岡ブロックから以下の講師依頼の提案があったとの報告.

黒田隆之氏(アイエック訪問看護ステーション 作業療法士)

5. 北九州ブロック研修会講師の承認について(玉野北九州ブロック担当理事)

→承認

以下の講師依頼について報告.

中村詩子氏(北九州市立総合療育センター 臨床工学士)

6. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事） →承認
以下の講師依頼について報告。
中村儀成氏（創造館クリエイティブハウス 作業療法士）
7. 戸畑リハビリテーションフェアシンポジストの承認について（玉野北九州ブロック担当理事）
→承認
以下のシンポジスト依頼について報告。
田中聡氏（リハデイ吉木 作業療法士）
8. 平成28年度事業計画・予算案の承認について（中川事務局長） → 一部修正の上承認
平成28年度事業計画・予算案について提案。
9. 研修会受講費の差別化検討について（志井田代表理事） →承認
今後、関係省庁の制度設計などに関する国等の要請によって、専門職として必要とされる知識の周知・啓発および技術の伝達などに関する研修会を開催した場合のみ受講料を無料とし、会員個人の資格取得や学術・技術研鑽を目的とした研修会とは区別して開催することについて提案。
10. マイナンバー制度に関する規程案について（手島規約委員会担当理事） →承認
マイナンバー制度開始にあたり特定個人情報等取扱規程案を提案。
11. 地域ケア会議情報交換会について（玉野北九州ブロック担当理事） →承認
各自治体で開催されている地域ケア会議の情報を共有するための意見交換会議を行うことについて提案。保健福祉部の予算でブロック毎に会議を行うことで承認。
12. 平成28年度任期満了に伴う役員及び代議員改選について（中川事務局長） →承認
選挙管理委員会から会員データ確定日、定数、日程の提案があったとの報告。
13. ホームページのリニューアル及び会員管理システムの構築について（許山広報部担当理事）
→承認
ホームページ及び会員管理システムのリニューアルについて、月額利用料、新システムへの移行作業、連絡窓口、セキュリティなど詳細について報告。
14. 正会員の入会承認について（中川事務局長） →承認
平成27年10月から11月までの間に40名の入会があった。
15. 平成27年度社員総会について（中川事務局長） →承認
以下の社員総会の開催について報告。
開催日時 : 平成28年2月14日（日）16:00～
会場 : 九州芸文館 教室工房1・2
議題 : 平成28年度事業計画・予算案
16. SIG登録申請について（白山教育部担当理事） →承認
以下のSIG申請について報告。
学会・研修会名 : 福岡Occupational Therapy diversity 研究会
(福岡OTD研究会)

Ⅶ. 協議事項

17. クリニカルクラークシップについての協会としての取り組みについて（榎本事業部担当理事） →継続検討

臨床実習におけるクリニカルクラークシップについての県協会での取り組みの提案。教育部が中心となり研修会などを行うことで啓発に努めることとし、詳細については継続検討。

18. 地域包括ケアシステムについての組織の再編について（志井田代表理事） →承認

地域包括ケアシステム関連事業について保健福祉部が中心となり、研修会開催は事業部、執務委員の管理は渉外部で行っていく。

19. 第20回福岡県作業療法学会の広報用ポスターについて（有久学術部担当理事） →承認

第20回福岡県作業療法学会の広報用ポスターについて提案。

20. 第21回福岡県作業療法学会の準備委員選定について（有久学術部担当理事） →承認

以下の準備委員選定について報告。

実行委員長候補：松尾雅宣氏（宗像水光会病院）

準備委員長候補：藤村俊宏氏（福岡青洲会病院）

会計：廣江淳氏（宗像水光会病院）

長池彩香氏（久山療育園）

21. 「ジャーナル作業療法・福岡」における査読委員について（有久学術部担当理事） →承認

以下の査読委員依頼について報告。

松崎理佐氏（ごう神経外科クリニック）心理学・終末期

四元孝道氏（九州栄養福祉大学）高次脳

鎌田陽之氏（介護老人保健施設ケアセンターひまわり苑）老年期・O B P 2.0

松本信雄氏（緑風会水戸病院）精神

22. 「ジャーナル作業療法・福岡」印刷業者選定について（有久学術部担当理事） →承認

「ジャーナル作業療法・福岡」の印刷業者について、2社に見積もり依頼したとの報告。協議の結果、石川特殊特急製本株式会社に依頼することが決まった。

Ⅷ. 報告事項（特記報告のみ記載。他、資料参照とする）

23. 代表理事行動について（志井田代表理事）

平成27年10月～11月の代表理事行動について報告。

24. 県協会宛て依頼案件について（志井田代表理事）

平成27年10月1日～11月30日までの間に県協会宛てに23件の依頼（研修会案内依頼10件、講師・委員推薦依頼5件、共催・後援依頼5件、その他3件）があった。

25. 県医療指導課監査について（中川事務局長）

平成27年10月27日に行われた県医療指導課監査について報告。公益認定の基準の遵守状況及び事業の取り組み状況、法人の組織及び管理・運営の状況などについて検査・確認があり概ね良好に運営されているとの結果で終了した。

26. 平成27年度上半期中間監査について（中川事務局長）

平成27年11月4日に行われた中間監査について報告。また、原口監事より、下半期に事業が集中する傾向にあるため、事業計画立案の際検討して欲しいとの指摘があったが、概ね良好に運営されているとの監査報告があった。

27. 休会届状況について（中川事務局長）

平成28年度休会依頼者として9件の届け出があった。休会依頼者より休会受理書発行の問い合わせがあり対応を行った。

28. 教育部主催研修会報告（白山教育部担当理事）

以下の研修会開催について報告。

地域分野研修会 平成27年10月4日（日）参加者38名

現職者共通研修（第1回）平成27年10月24日（土）

老年期分野 平成27年11月1日（日）参加者51名

身障分野 平成27年11月8日（日）参加者65名

29. 第20回福岡県作業療法学会の進捗状況について（有久学術部担当理事）

第20回福岡県作業療法学会の準備状況について報告。35演題の応募があり査読が終了した。現在、広報や学会誌発送の準備を進めている。

30. ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画について（有久学術部担当理事）

ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画の進捗状況について報告。平成28年3月中旬頃の発送予定で準備を進めている。

31. 平成27年度九州作業療法士会会長会主催広報戦略会議について（許山広報部担当理事）

平成27年10月3日に開催された広報戦略会議の参加報告。

32. ハートメディア2015市民公開講座について（榎本事業部担当理事）

平成27年10月27日にハートメディア2015市民公開講座が開催され250名の参加があった。

33. 2015福岡市民車いすマラソンについて（榎本事業部担当理事）

平成27年11月8日に開催された2015福岡市民車いすマラソンに協力し啓発活動を行った。

34. 西日本福祉機器展2015について（佐藤企画委員会担当理事）

平成27年10月29日（木）～31日（土）に開催された西日本福祉機器展2015に県協会としてブース出展し、約350人の体験参加者があった。

IX. 次回開催日

平成27年度 第6回理事会

日時：平成28年2月1日（月）19：00～

場所：株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン

平成27年度 第6回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成28年2月1日(月) 19時00分～22時00分
II. 場所 : 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 18名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 佐藤稔,
大田登志樹, 平岡敏幸, 深町晃次, 榎本孝史, 田中真純,
濱本孝弘, 許山勝弘, 有久勝彦, 沖雄二, 轟木健市,
福田裕樹, 手島智康(以上, 理事)
吉田秀樹, (以上, 監事)
鐘ヶ江秀俊, 田邊慎一, 藤崎実知子, (以上, 事務局)
欠席者氏名 : 棕学美, 玉野和男(以上, 理事) 原口健三(以上, 監事) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 筑後ブロック研修会講師の承認について(轟木筑後ブロック担当理事) →承認
以下の講師依頼について報告。
吉田誠治氏(株式会社夢企画 代表取締役 一級建築士)
2. 福岡ブロック研修会講師の承認について(志井田代表理事) →承認
福岡ブロックから以下の講師依頼の提案があったとの報告。
鹿野由紀氏(福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア推進課 地域推進ケア推進係長)
3. 福岡東ブロック研修会講師の承認について(大田福岡東ブロック担当理事) →承認
以下の講師依頼について報告。
水谷由紀子氏(NPO法人ヘルスカウンセリング学会公認ヘルスカウンセラー,
ソーシャルスキルトレーナー)
4. 筑豊ブロック研修会講師の承認について(平岡筑豊ブロック担当理事) →承認
以下の講師依頼について報告。
渡邊直美氏(元 帝京大学福岡医療技術学部 教授)
5. 北九州ブロック研修会講師の承認について(志井田代表理事) →承認
北九州ブロックから以下の講師依頼の提案があったとの報告。
福田裕樹氏(福岡県作業療法協会保険委員会担当理事)
6. SIG登録申請について(白山教育部担当理事) →承認
以下のSIG申請について報告。
学会・研修会名 : 第4回日本脆弱性骨折ネットワーク (FFNJ)
7. 平成28年度休会会員の承認について(中川事務局長) →承認
平成28年度休会会員として22名の正会員から申請があった。
8. 正会員の入会承認について(中川事務局長) →承認
平成27年12月から28年1月までの間に21名の入会があった。
9. 講師謝礼金支払におけるマイナンバー管理について(中川事務局長) →承認
講師謝礼金支払におけるマイナンバー管理は県協会の研修会等において年間15万円以上の講師謝礼金を支払った場合にするとの提案。

Ⅶ. 協議事項

10. 「規約集」印刷業者選定について（手島規約委員会担当理事） →承認
「規約集」の印刷業者について、2社に見積もり依頼したとの報告。協議の結果、株式会社東兄弟に依頼することが決まった。
11. 作業療法全国研修会開催について（志井田代表理事） →承認
日本作業療法士協会からきている平成29年度以降の全国研修会開催地協力可否アンケートの立候補について協議。九州合同学会や日本作業療法士学会の開催年度と同年にならないよう調整し、開催可能として返答する。
12. 平成28年作業療法の日イベントについて（榎本事業部担当理事） →承認
平成28年9月25日木の葉モール橋本イベント会場において開催する予定の作業療法の日イベント内容について提案。
13. 第21回福岡県作業療法学会の準備委員選定について（有久学術部担当理事） →承認
以下の準備委員選定について報告。
学術局長 : 松本信雄氏（緑風会 水戸病院）
学会発表部 : 西元徳考氏（宗像水光会総合病院）
高沢梨紗氏（福岡青洲会病院）
査読部 : 松本信雄氏（緑風会 水戸病院）
学会誌編集部 : 池松恭平氏（福岡青洲会病院）
事務局局長 : 長野久美子氏（宗像水光会総合病院）
総務部 : 河津絵里氏（宗像水光会総合病院）
広報部 : 太田拓文氏（福岡青洲会病院）
弦巻厚平氏（宗像水光会総合病院）
財務部 : 廣江淳氏（宗像水光会総合病院）
長池彩香氏（久山療育園）
運営局 局長 : 斉藤茂氏（リストーロ若宮）
運営部 : 鎌田聡史氏（あおぞらの里）
企画部 : 渡辺友基氏（緑風会 水戸病院）
14. 重点課題事業への対応強化についての組織づくりについて（志井田代表理事） →承認
地域包括ケアシステム関連事業について保健福祉部の組織再編と県協会内での連携の提案。
15. 重点課題事業への対応強化にむけた組織づくりを受けて（濱本保健福祉部担当理事） →承認
地域包括ケアシステム関連事業について推進班を編成し事業を進めていく。

Ⅷ. 報告事項（特記報告のみ記載。他、資料参照とする）

16. 代表理事行動について（志井田代表理事）
平成27年12月～28年1月の代表理事行動について報告。
17. 県協会宛て依頼案件について（志井田代表理事）
平成27年12月1日～28年1月31日までの間に県協会宛てに19件の依頼（研修会案内依頼8件、講師・委員推薦依頼6件、共催・後援依頼1件、その他4件）があった。
18. 平成27年度福岡県介護予防指導者研修会報告について（志井田代表理事）
久留米会場申し込み数163名受講予定者数163名、北九州会場申し込み数182名受講予定者数135名、福岡会場申し込み数197名受講予定者数182名であった。

19. 教育部主催研修会報告（白山教育部担当理事）

以下の研修会開催について報告.

発達分野研修会 平成28年1月10日（日）参加者41名

20. 第20回福岡県作業療法学会の進捗状況について（有久学術部担当理事）

第20回福岡県作業療法学会の準備状況について報告. 出展関係12件, 市町村PRテント4件を予定している.

21. ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画について（有久学術部担当理事）

ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画の進捗状況について報告. 本年度の投稿論文は3論文の掲載を予定.

22. ウェブサイトアンケート報告について（許山広報部担当理事）

ウェブサイトアンケートの結果報告.

IX. 次回開催日

平成28年度 第1回理事会

日時：平成28年4月4日（月）19：00～

場所：株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン



平成27年度 公益社団法人福岡県作業療法協会 定期社員総会議事録

1. 開催日：平成28年2月14日（日）
2. 時間：16時00分～17時00分
3. 場所：筑後広域公園芸術文化交流施設 九州芸文館
4. 正会員数：2,781名（平成28年1月15日現在）
5. 代議員総数：41名
6. 本総会出席代議員数：本人出席 25名 書面評決者 12名
7. 出席者氏名：
 - ＜代議員本人出席＞
椋学美，沖雄二，竹中祐二，町田真一朗，日高健二，藤田曜生，熊添潤一，佐藤稔，座小田孝安，志井田太一，白山義洋，田中聡，玉野和男，中川昇，深町晃次，有久勝彦，澤田剛，轟木健市，中原徳郎，濱本孝弘，福田裕樹，大田登志樹，田中真純，手島智康，平岡敏幸
 - ＜代議員書面評決者＞
青山克実，黒木勝仁，苗村俊助，中島純二，原田靖子，許山勝弘，榎本孝史，東谷成晃，矢野浩二，深井伸吾，渡辺友基，舩井剛士
 - ＜監事＞
原口健三，吉田秀樹
 - ＜事務局＞
鐘ヶ江秀俊，田邊慎一，藤崎実知子
8. 議長，書記選出：
中川昇理事が開会を宣言し，定款第23条に基づき出席代議員の中から議長に志井田太一氏が選出された．ついで議長の指名により書記に鐘ヶ江秀俊氏，藤崎実知子氏が選出された．
9. 議事の経過の要領及びその結果：
議長は，議事運営委員長の大田登志樹氏より報告をうけ，上記のとおり定足数に足りる代議員の出席があったので本総会は成立した旨を報告した．
ついで議長は定款第27条の規定により，議事録署名人に田中聡氏，藤田曜生氏を任命した．
議事録署名人： 田中聡 氏 （リハデイ吉木）
藤田曜生 氏 （九州大学病院）
- 第1号議案：平成28 年度事業計画
第1号議案，平成28 年度事業計画について志井田太一代表理事より報告があった．
議決の結果過半数の賛成にて承認された．
- 第2号議案：平成28 年度収支予算報告
第2号議案，平成28 年度収支予算について中川昇理事より報告があった．
議決の結果過半数の賛成にて承認された．
10. 議長団解任
11. 閉会の言葉

以上の議事進行をもって総会が終了した．

以上の決議を明確にするために，本議事録を作成し，定款27条により議長及び議事録署名人が次に記名押印する．

平成28年2月14日 公益社団法人福岡県作業療法協会 定期社員総会

各部・委員会からのお知らせ

【教育部】

主催研修会開催報告

1) 発達分野研修会

日 時：平成28年1月10日（日）

10:00～17:00

会 場：麻生リハビリテーション大学校

テーマ：『生活につながる機能のみかた
～脳性まひのある子どもを対象に～』

講 師：黒澤 淳二 OT

（大阪発達総合療育センター）

参加数：41名

（内、他県士会OT 鹿児島1名、PT 1名）

2) 第2回現職者共通研修

日 時：平成28年2月13日（土）10:00～13:10

会 場：九州芸文館（筑後市大字津島）

テーマ & 参加数 & 講師：

区分1①作業療法生涯教育概論 37名

鐘ヶ江 秀俊 OT

（療養介護事業所ひなた家）

伊藤 晃一 OT

（介護老人保健施設きんもくせい）

②職業倫理 28名

手島 智康 OT

（良創夢リハビリの森デイサービスセンター）

区分2①作業療法の可能性 22名

志井田 太一 OT

（福岡県作業療法協会 会長）

②事例報告と事例研究 28名

青山 克実 OT

（麻生リハビリテーション大学校）

区分3①保健・医療・福祉と地域支援 22名

初井 剛士 OT

（健康リハビリテーション内田病院）

②実践のための作業療法研究 23名

久野 真矢 OT（帝京大学）

区分4①作業療法における協業・後輩育成 25名

永田 敬生 OT（福岡医健専門学校）

②日本と世界の作業療法の動向 30名

大丸 幸 OT（九州栄養福祉大学）

【学術部】

第20回福岡県作業療法学会 参加者等報告

期日：平成28年2月13日（土）・14日（日）

主題：作業療法×地域＝創造 ～エンジョイが
みんなの援助に～

会場：筑後広域公園芸術文化交流施設

九州芸文館

参加者数：延べ参加者数398名

（1日目238名・2日目160名）

実参加者数309名

（学生31名・他職種5名・他県士会7名）

各セッション別参加者数：

開会式118名

基調講演118名

1日目：セミナー①85名、セミナー②66名

口述発表A 55名、口述発表B 37名

口述発表C 30名、口述発表D 67名

ポスターG 33名、ポスターH 18名

福祉機器展 131名（一般44名）

ワークショップ 63名

2日目：セミナー③73名、セミナー④69名

口述発表E 63名、口述発表F 30名

ポスターI 45名、ポスターJ 45名

福祉機器展 206名（一般70名）

ナイトセミナー70名

市民公開講座①186名（一般80名）

シンポジウム93名（一般49名）

市民公開講座②85名（一般39名）

ミニ公開講座①16名、②26名、③24名

【北九州ブロック】

1. 活動報告

＜北九州ブロック＞

ブロック企画会議開催

平成28年1月18日（月） 19:00～

（公社）福岡県作業療法協会事務所

平成28年3月7日（月） 19:00～

（公社）福岡県作業療法協会事務所

第2回北九州ブロック全体研修会

平成28年1月8日（金） 19:00～21:00

会 場：九州栄養福祉大学

小倉南区キャンパス

テーマ：対象者の「活動」と「参加」の

実現に向けた作業療法

講 師：佐藤友美氏（湯布院病院）

参加者：61名

専門職向け地域ケア会議研修会

日 時：平成28年3月5日（土）

10:00～16:00

会 場：電気ビル共創館

参加者：7名

戸畑区リハビリテーションフェア

日 時：平成28年3月20日（日） 10:00～

会 場：ウェル戸畑

参加者：2名

＜小倉北・門司エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成28年3月4日（火）19:00～

第8回北九州ブロック研修会

日 時：平成28年2月26日（金）

19:00～20:30

会 場：北九州市立男女共同参画

センタームーブ 大セミナー室

テーマ：働くを支え、希望と意味のある生活を
目指して～就労支援における作業療法士
の役割とは～

講師：中村儀成氏
(創造館クリエイティブハウス)

参加者：33名

<小倉南・京築エリア>

エリア事業企画会議開催

平成28年2月17日（水）19:00～

北九州市立曽根東市民センター

第7回北九州ブロック研修会

日時：平成28年1月22日（金）

19:00～20:30

会場：北九州市立総合療育センター

テーマ：明日から役立つシーティングの技術

講師：中村詩子氏
(北九州市立総合療育センター
リハビリ工学士)

参加者：58名

<広報部>

事業企画会議開催

平成28年2月15日（月）19:00～ 和菜屋

広報誌「北九OTネットvol.20」発行

【福岡ブロック】

1. 事業企画会議開催

平成28年 1月14日（木） 福岡赤十字病院

参加：14名

平成28年 2月18日（木） 福岡赤十字病院

参加：17名

平成28年 3月 8日（火） 福岡赤十字病院

参加：23名

2. 広報部

1) 「Joy Style 冬号」1月20日発行

2) Facebook：随時更新中

3. 教育学術部

1) 「福岡市における地域包括ケア実現に向けた
取組について」

講師：鹿野 由紀先生

(福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア
推進課 地域包括ケア推進係長)

日時：平成28年2月16日（火）

19:00～20:30

場所：福岡赤十字病院 椎木記念ホール

参加：66名

4. エリア会

1) 第3回 事例報告検討会

日時：平成28年1月18日（月）

19:00～20:30

会場：麻生リハビリテーション大学校

参加 発表：3名 聴講：4名

【福岡東ブロック】

1. 活動報告

①地域ケア会議研修（福岡東ブロック地域ケア
会議担当者会議）

平成28年3月5日（土）於宗像水光会総合病院
担当者6人出席

議題・宗像市、福津市地域ケア会議現状報告
・今後のブロックの対応と課題について
(行政の意向と推進会員の増員について
検討した)

②第21回福岡県作業療法学会福岡東ブロック準
備委員会

<第4回>

日時：平成28年3月9日（水）19:00～21:00

於福岡青洲会病院

出席者：有久理事、太田、松尾（学会長）、
近重（副学会長）、藤村（準備委員長）、
渡辺、松本、齋藤、長野、河津、太田、
廣江、長池、計13人出席

議題 趣意書推敲および今後のスケジュール
確認

③平成27年度第3回福岡東ブロック研修会

日時：平成28年3月4日（金）

於宗像水光会総合病院地域交流室

講師：水谷由紀子（NP0法人ヘルスカウンセ
リング学会公認ヘルスカウンセラー、
ソーシャルスキルトレーナー）

テーマ：「DNA気質で自分を知ろう！」

～人間関係のヒントと臨床場面での
活かし方～

参加者：19人（OT会員18人、SW1人）

【筑後ブロック】

【活動報告】

<公1>

1. 事業企画会議

1) 第6回 筑後ブロック事業企画会議

開催日：平成28年2月22日（月）19:30～

場所：高良台リハビリテーション病院

出席者：11名

1) 第5回C地区企画会議

開催日：平成28年1月18日（月）

場所：介護老人保健施設 はなぞの

内容：①代表者会議内容伝達

②平成28年度筑後ブロック

C地区研修会の進捗状況

③第20回福岡県作業療法学会について

④平成28年度運営委員について

→全員継続

出席者：5名

2. 研修会

1) B地区事例検討報告会

日時：平成28年1月13日（水）

会場：専門学校

久留米リハビリテーション学院

参加者；発表者14名

聴講者4名＋当日受付の聴講者22名

計40名 ※聴講予定者3名欠席

2) D地区事例検討報告会

日時；平成28年2月5日（金）

会場：甘木中央病院

参加者；発表者12名 聴講者31名

（当日欠席2名） 計16名

3) 学術教育研究統括

〈公2〉

1. 広報活動

1) Facebook広報実施

【今後の活動予定】

〈公1〉

1. 事業企画会議

1) B地区企画会議（第7回）平成28年3月

2) D地区企画会議 平成28年5月

2. 研修会

1) 平成28年度事例検討報告会の日程

A地区：2月 B地区：1月

C地区：10月 D地区：11月

【筑豊ブロック】

【活動報告】

〈公1〉

I. 事業企画会議

第5回 筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成28年2月10日月曜日

19：00～20：30

会 場：飯塚記念病院 グランドホール

参加者：15名

内 容：第5回筑豊ブロック研修会について、
事例報告検討会について、他

II. 研修会報告

平成27年度 事例報告検討会

日 時：平成28年1月20日（水）

19：00～21：00

発表者：栗田清香，酒井裕司（くらて病院），
平田理沙，山下麻凡（飯塚市立病院）
藤真由美（宮田病院）

座 長：安藤栄二（宮田病院），松本剛史
（りはふるデイサービスセンター）

聴講者：8名

第6回筑豊ブロック研修会

日 時：平成28年2月17日（木）

19：00～21：00

会 場：飯塚記念病院 グランドホール

テーマ：青年期の発達障害と精神発達遅滞の
特徴と基本的対応

講 師：渡邊直美（元帝京大学）

参加者：40名

〈公2〉

III. 広報誌 筑豊OT TIMES 第15号

平成28年1月31日発行



平成28年度九州作業療法士会長会主催合同研修会出張報告書

社会福祉法人 学而会 サンシャインセンター

黒木 勝仁

平成28年1月30日(土)・31日(日)の2日間、九州中央リハビリテーション学院にて開催された平成28年度九州作業療法士会長会主催合同研修会に参加してきました。

1日目は「集団を活かすコミュニケーション」をテーマにt-wing代表コーチ・コミュニケーショントレーナーである山田美津子先生の講義を受けました。この講義は座学だけではなく、実際にコミュニケーション技術を養うトレーニングの場を設けていただき、グループ討議を交えて多くの参加者と触れ合うことができました。また、臨床場面の治療におけるコミュニケーション技術習得だけではなく、他職種連携の際においても作業療法士がうまく意見を伝える技術も習得することができました。他者に自分の意見を伝えることは大変難しいことです。この点に関しては、聞く姿勢・相手に与える印象・適切な接し方などを自分が学んで相手と接することで、良い関係を築き相手に自分の思いを伝わりやすくなると学びました。私が何気なくコミュニケーションしている態度ははたしてどうなのかと、改めて自分自身で考える良い機会となりました。講義全体を通して、コミュニケーションは使わなければ錆びてしまいますので機会がないと思っているならば、今からはじめる「その一歩」が大切ですよという言葉が講義の中で大変印象に残っています。作業療法士として、自ら発信するその一歩を大切にしていきたいと感じました。

2日目は「地域ケア会議の模擬事例から助言内容を考える～大分県の取り組み～」をテーマに大分県作業療法協会常務理事の佐藤暁先生の講義を受けました。大分県ではいち早く地域ケア会議の取り組みを実施しており、行政機関に対してリハビリテーション職から発信した地域リハビリテーションの成果をあげています。この講義も座学だけではなく、模擬的な地域ケア会議のグループディスカッションを実施しました。この機会を通して九州各ブロックの作業療法士の方々より、地域ケア会議の開催状況・取り組みについての情報交換や実際に参加している方からの助言もいただくことができました。私はまだそのような場に参加したことがないので、模擬的な地域ケア会議を体験することができたのは良い経験になりました。2つの研修を通してはどちらもグループワークを設けていたので、人前で自らの意見を発言する機会が多くあり、大変有意義な研修になったと思います。

今後、作業療法を提供する環境は多様になり、他職種・行政との関係作りも重要な課題になると思います。医療・介護を提供する環境は日々変化しており、医学モデルから行政に対する予防モデルを提示することも、今後作業療法士が求められる技術になると考えます。今回の研修に参加して、九州各地の作業療法士の先生方に会うことができ、自分も頑張らなくてはならないと強く感じました。年に一回、九州から多くの作業療法士の方が集まり、このような研修会を実施することが作業療法の結束を強くすると思います。今回の研修を企画していただいたスタッフの方々にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

臨床指導者研修出張報告書

聖マリアヘルスケアセンターリハビリテーション室
前田亮介

会 期：平成27年10月31日～11月1日

場 所：長崎市大黒町3-1 交通会館3階 「えきまえ」いきいきひろば

会 名：臨床実習指導者研修（中・上級）長崎

今回、長崎県で開催された平成27年度九州作業療法士会長会合同研修会 臨床実習指導者研修（中・上級）に参加させて頂きました。

専門教育の質の向上が求められる中、少子化や進学率の上昇及び養成校の増加に伴い、学生の学力低下や内面的課題を抱えている学生が増えてきています。また、臨床実習指導者の若年化や経験則による指導などにより、学生の臨床実習到達点の低下が危惧されています。そのため指導法の習得や指導の工夫が求められており、研修では、①作業療法学生の臨床実習指導に必要な知識と技術に関する内容、②作業療法学生の臨床実習指導に必要な管理運営に関する内容を学習することを目的として2日間に渡り研修が執り行われました。

研修の内容としましては、原口健三先生（国際医療福祉大学福岡保健医療学部作業療法学科）より臨床実習指導総論について、松野豊先生（柳川リハビリテーション病院）よりクリニカル・クラークシップ/症例基盤型臨床実習、症例レポート作成指導/症例報告の仕方について、徳山和宏先生（徳山オフィス）よりコーチングについて、藤原一先生（篠華医療技術専門学校作業療法学科）より臨床実習に関する全体管理についてご講演頂きました。

松野先生のクリニカル・クラークシップに関する講演では、臨床実習の具体的な実践の方法をご提示いただき、非常に参考になりました。今後の当院における実習形態を検討する必要があると思いました。しかしながら、先生も講演の中で述べられていたように、ステレオタイプとして極論としてとらえるのではなく、実習施設の特徴、専門性を考慮したうえで、教育施設と十分に検討し実習形態を考えていくべきであると思いました。

徳山先生のコーチングの研修では、実際にメッセージを作成する演習があり、他者に「伝える」ことの難しさを改めて思い知らされた次第です。実習指導のみならずスタッフ教育においても十分に活用していきたいと思いました。

今回は本研修会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。今回の研修会で学んだことをふまえ、臨床実習の質の向上に寄与できるよう努めていきたいと思っています。

早いもので私が作業療法士という仕事に就いて20年が経過しました。未だに自分の未熟さ、知識や技術のなさに落ち込み、この仕事を行っていく上で学ばなければいけないと思うことが多く、そんな月日が経ったという実感は全くありません。リハ学時代の恩師がこの3月で定年されると聞き、ただただ驚くばかりです。

私は学生時代の精神科の実習でその方の人生を共に考えるような視点を教えていただき、精神科作業療法に興味を持ち、精神科の当院に就職しました。当時、作業療法士は精神保健福祉士、心理士、デイケアスタッフと同じ部署に所属していた為、多職種の先輩、同僚が複数おり、普段からわからないこと、困ったことを相談できる幸せな職場環境でした。ケースワークや制度、社会資源、集団療法等も具体的に教えていただき、たくさん経験させていただきました。また対象者を中心にチームを組み、「その人らしい生活を実現する」為にお互いの職域を決めつけず多職種で協働すること、その為に普段からよく語り合い、個人のキャラクターを大切に尊重することとも教えていただきました。

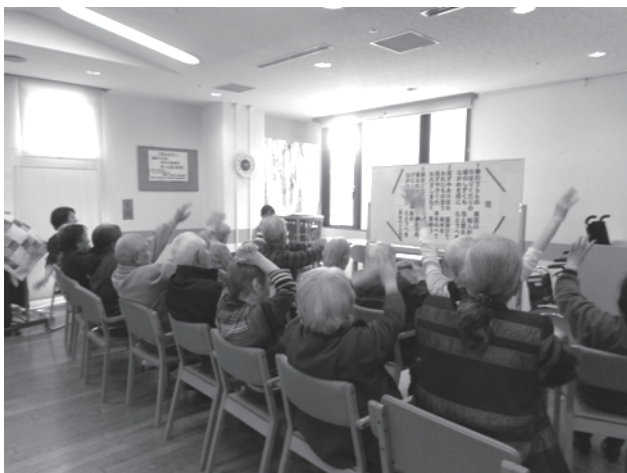
私個人はセンター制担当のOT、急性期病棟、療養病棟、精神科デイケア、訪問看護ステーション、外来、内科病棟、介護老人保健施設と、患者さんと一緒に病院から地域へ戻っていく過程のような異動を経験した後、再び病院、施設に戻ってきました。

病棟でも、地域でも、「作業療法」という名称を初めて聞く方、よくわからないという方がたくさんいました。対象者やご家族、他職種のスタッフに「作業療法とは何か」を説明する機会、説明した方が良いと思われる機会はこれまで多くあり、その度に説明をしてきましたが、未だに美容院などで「作業療法って何？」と聞かれるとどう説明すれば伝わるのかがわからず戸惑ってしまいます。普段は「〇〇さんらしい生活を実現する」為に、その方の希望や状況を一緒に整理、確認し、自信を取り戻す、病気との付き合い方を学ぶ、就職する、生き甲斐をみつける等の目標を立て、具体的な行動を提案し始めてみる・・・という仕事をしながら、その時期、その方、その組織にあった説明をしているつもりです。

対象者にとって千差万別の価値観や生活スタイル、環境等があり、「その人らしい生活を実現する」為の支援の内容も様々なので、「作業療法とは何か」を万人に向けて説明することは難しいのですが、画一的ではない支援内容であった時ほど「その人らしさ」が感じられ、その方の大切な人生の一場面に参加させていただけたような喜びがあります。万人に説明しづらい、わかりづらい職業ですが、その分自由で対象者の「その人らしさ」を尊重できる魅力的な仕事だと思います。

訪問看護ステーションや外来、デイケア等、地域での支援を経験してみて、対象者の「その人らしい生活の実現」は地域ではごく自然に多職種でチームを組んで行えるものだと思います。病院や施設から地域生活に戻ることは対象者やそのご家族、また支援者にとっても大変な気力、労力を要することですが、今後もその方やご家族の大切な人生を最期までその人らしく過ごしていただけるよう、引き続き多職種で協働しながら取り組んでいきたいと思っています。またチームの一員として「作業療法とは何か」、どんなお手伝いができるかをできるだけわかりやすく、説明、提案していくよう努めたいと思っています。

対象者やそのご家族、他職種、同職種の先輩後輩に沢山のことを教えて頂き、支えて頂くことで何とか20年もこの仕事を続けられました。この執筆を通じて、この先の20年はさらに研鑽し、これまで支えて頂いた方々に少しでも恩返しができるような仕事をしていきたいと思いました。



リレーエッセイ

社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院 石田真紀子 南厚希

当院は遠賀郡水巻町にある227床（ICU16床、NICU12床、GCU5床、一般194床）の急性期病院です。各病棟の談話室は三号線に面し正面には鹿児島本線、東は皿倉山、西は遠賀川に臨んでいます。当リハビリテーション科はPT29名、OT25名、ST7名、クラーク2名の総勢63名が所属しており整形外科班、脳神経外科班、内科班、外科班、小児班、訪問班で構成されています。平成27年10月よりがんリハも開始されました。私達が作業療法士になりたての頃に比べこの地域でも高齢化が進んでいることを実感します。当院は介護予防を目的に地域の方々に健康教室を開いています。また、最近の試みとして認知症の患者様やそのご家族に対しての講習会やスタッフに対して認知症の勉強会を開催しています。また、地域連携室を通して病棟班から訪問班や各介護保険サービス等へのスムーズな引継ぎを行い、患者様が再び地域へ戻って安全・安心な生活を送れるよう努めています。

私達は育児休暇を経て現在病棟と訪問リハビリでそれぞれ働いています。作業療法の仕事に復帰し、改めて作業療法の楽しさや素晴らしさを実感し作業療法士を続けて良かったと心から思います。

病棟リハビリでは普段と異なる生活を強いられ病と闘い、身体・精神的に辛い状況である患者様が作業療法を通し心や身体が元気になっていく姿を見るととても励みになります。そして訪問リハビリでは退院後も元気な生活を継続し有意義な生活を送って頂くためにご本人だけでなくご家族様やその家族を支援する方々と連携を取り皆で一緒に頑張っていく事に喜びを感じます。家庭と仕事の両立は大変ですがその反面育児を通して学ぶことも多く、その立場を活かし今後より広い視野で患者様・ご家族様側に立った作業療法を展開していけたらと思います。また、今後同じように子育てをしながら頑張っているお母さんセラピスト達が働きやすい環境作りにも努めていきたいと考えています。



社会医療法人財団 池友会 香椎丘リハビリテーション病院 清水慎吾

みなさま、はじめまして。香椎丘リハビリテーション病院の清水慎吾です。出身は長崎県の五島列島です。玄界灘の魚も美味しいですが、五島の魚も美味しいですよ。最近、居酒屋に行くとメニューの中に「五島直送」と書かれていることが増えたなと思い、嬉しく感じています。五島は福岡空港から飛行機で約40分、博多港から夜行フェリーで約480分し行けますので、是非遊びに行つてはいかがでしょうか。

さて、私はOTになり、10年が過ぎました。OTとして働き始めた頃は急性期で勤務し、その後は回復期で勤務しております。現在勤務している病院は福岡市東区に位置し、自然豊かな三日月山の麓にあり、回復期リハビリテーション病棟120床を有している病院です。自然が豊かすぎて、冬には狸や猪がたまに出没し、一昨年は猿も出没したことがありました。当院には個性が豊か過ぎる作業療法士32名在籍しており、和気あいあいと働いております。4月からは診療報酬改定に伴い、ますますリハビリテーションの「結果」が求められる時代になっていくなあと感じております。さて、医療の中での作業療法士にとっての「結果」とは？そもそも対象者にとっての「結果」とは？と考える日々です。現在、当院ではリハビリ



テーション科で専門チームを発足し、OTでは嚥下チーム、栄養チーム、排泄チーム、自動車運転チームに抱わり、対象者によりよい支援を提供しようと取り組んでいます。私は対象者の自動車運転支援に関わっています。当院には比較的年齢の若い対象者も入院していますので、退院した後の自動車運転の希望する声は少なくありません。一昨年から、近隣の自動車学校と連携し、実車教習を行っています。課題は山積みでOTとしてできることは何かと模索しております。日々、悩むことが多い臨床ですがやりがいも感じています。「働くからこそ休まれる」私の好きな歌詞のフレーズです。みなさま、疲れた時には是非五島へ。

介護老人保健施設 寿楽苑

【募集職種】 作業療法士
 【募集人員】 1名
 【雇用形態】 パート（産休代替）
 雇用期間H28年12月9日まで
 【給 与】 時給1,550円～1,750円
 【賞 与】 なし
 【勤務時間】 13：00～16：00
 【休 日】 土・日・祝日
 【福利厚生】 労災保険
 【そ の 他】
 交通費上限なし
 （マイカー通勤可，駐車場無料）
 【備 考】
 介護老人保健施設70床
 作業療法士 通常2名体制
 （現在1.5名体制）
 【連 絡 先】
 住所：〒803-0831 北九州市小倉北区日明3-9-6
 電話番号：093-582-1898 F A X；093-582-1899
 担当者；施設次長 宍戸（ｼﾝﾄﾞ）

医療法人同仁会 乙金病院

【募集職種】 作業療法士（精神作業療法）
 【募集人員】 2名
 【雇用形態】 正社員
 【給 与】 25万～28万
 【賞 与】 年2回（7，12月） 3ヶ月
 【勤務時間】 8：45～17：30
 【休 日】 日曜日他（年間休日：105日）
 【福利厚生】 健康 労災 厚生 雇用 退職金制度
 【そ の 他】 交通費
 （マイカー通勤可，駐車場無料）
 住宅手当，家族手当，託児所あり
 【備 考】
 精神科，内科，診療内科，リハビリテーション科
 252床の病院です。
 【連 絡 先】
 住所：福岡県大野城市乙金東4-12-1
 電話番号：092-503-0077 FAX 092-503-7855
 担当者名：総務課 田中

J R九州病院

【募集職種】 作業療法士
 【募集人員】 1名
 【雇用形態】 正社員
 【給 与】 186,400円以上
 （経験等考慮します）
 【賞 与】 年間5.15ヶ月（年2回支給）
 【勤務時間】 8：30～17：25
 【休 日】 年間110日及び調整休日
 （計122日）
 【福利厚生】 厚生・健康・雇用・労災保険
 など
 【備 考】
 ・病床数254床
 （一般158床，地域包括46床，医療療養50床）
 ・雇用形態：3ヶ月間有期契約社員として雇用後，
 別途正社員登用試験を実施
 ・給与：職務経歴，年齢による加算あり
 （参考：経験4年 205,900円（専門学校卒25才））
 有期契約期間中の給与は日給8,400円
 【連 絡 先】
 住所：北九州市門司区高田二丁目1番1号
 電話番号：093-381-5661 FAX：093-381-1077
 担当者名：総務課 後藤

体に合った車いす・目的に合った車いす
 をご提供します
 車いす・介護用品・福祉用具レンタル



本社／福岡市中央区天神 5-4-15
 営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目 9-20
 TEL／092-938-2208
 HP／http://www.takisyokai.co.jp

タキ商会

会員動向調査

調査期間 (2015. 12. 12～2016. 3. 3)

福岡県作業療法協会 会員数2,767 名 (正会員2,489 自宅会員278名)

<入会>

横山 泰斗 福岡新水巻病院 : 2015年11月
西 駿一 小嶺江藤病院 : 2015年12月
善明 勇二 児童発達支援 放課後等デイサー
ビス事業所 ごえん : 2016年1月
藤倉 康陽 新行橋病院 : 2016年1月
吉井 健吾 福岡病院 : 2016年1月
有川 智之 光安整形外科 : 2015年11月
大町 昭彦 千鳥橋病院 : 2015年11月
小関 美穂 夫婦石病院 : 2015年12月
真鳥 伸也 樋口病院 : 2015年12月
田山 晴菜 福岡和白病院 : 2015年12月
眞辺 勇希 福岡和白病院 : 2016年1月
酒井 歩美 桜十字福岡病院 : 2016年1月
黒木 雄大 桜十字福岡病院 : 2016年1月
石坂 奈津弥 飯塚病院 : 2015年12月
藤 真由美 宮田病院 : 2015年12月
牧岡 大喜 りはふるデイサービスセンター
: 2016年1月
足立 好隆 良創夢訪問看護ステーション
: 2016年1月
安藤 瞳 聖マリア病院 : 2015年4月
渡部 信彦 高良台リハビリテーション病院
: 2015年12月
箕輪 透士 デイサービスよかとこ
: 2015年12月
大岩根 志保 嶋田病院 : 2015年12月
藤澤 志保 筑水会病院 : 2016年1月
高山 佳 ヨコクラ病院 : 2016年1月
大石 陽子 松岡病院 : 2016年1月

<県内移動>

萩 まどか 北九州安部山公園病院
: 2015年4月
(北九州八幡東病院より)
松尾 綾子 大手町リハビリテーション病院
: 2015年5月
(大手町病院より)
伊藤 祐美 あやめ訪問看護ステーション
: 2015年6月
(介護老人保健施設 あやめの里より)
後藤 薫 エスパレス一枝デイサービスセンター
: 2015年7月
(自宅より)
小倉 由希 自宅 : 2015年10月
(新行橋病院より)
坂場 翔子 在宅ナースセンターはんずあい
: 2015年12月
(在宅ナースセンターはんずあい小倉より)
原 加代子 自宅 : 2015年12月
(介護老人保健施設 桜丘より)

中村 祐規 北九州八幡東病院
: 2016年1月
(北九州中央病院より)
森下 遥香 児童発達支援 放課後等デイサー
ビス事業所 ごえん : 2016年2月
(遠賀中間医師会おかがき病院より)
土井 貴弘 自宅 : 2016年2月
(株式会社 楽々サービスより)
江原 直樹 北九州古賀病院 : 2016年2月
(上野病院より)
大石 康 介護老人保健施設 楽陽園
: 2015年1月
(金隈病院より)
川口 桂一 福西会南病院 : 2015年4月
(介護老人保健施設 ひまわり苑より)
八尋 さおり 特別養護老人ホーム 悠生園
: 2015年4月
(太宰府市地域包括支援センターより)
中山 章平 特別養護老人ホーム 恵
: 2015年6月
(原病院より)
福澤 一 あおぞらの里 和白訪問看護ステーション
: 2015年7月
(香椎丘リハビリテーション病院より)
筑木 三香 自宅 : 2015年12月
(倉光病院より)
黒木 勝仁 サンシャインセンター
: 2016年2月
(原病院より)
舩井 剛士 株式会社Rキューブ
: 2016年2月
(健康リハビリテーション内田病院より)
中村 志穂里 筑後市立病院 : 2011年10月
(自宅より)
小田 大輝 柳川リハビリテーション病院
: 2015年5月
(高木病院より)
鋤本 千恵子 古賀病院21 : 2015年12月
(野伏間クリニックより)
中村 明治 おおむた訪問看護ステーション
: 2015年12月
(米の山病院より)
牧原 早紀 聖マリアヘルスケアセンター
: 2016年2月
(聖マリア病院より)
宇田 陽一 片井整形外科・内科病院
: 2016年2月
(マリン病院より)

<退会者>

柴原 章	: 2015年11月
野村 めぐみ	: 2015年12月
田村 枝里子	: 2016年1月
黒木 愉麻	: 2016年1月
岡田 重子	: 2016年1月
大石 佳代	: 2016年1月
堀田 恵理	: 2016年1月
源元 大志	: 2016年1月
宮崎 友紀	: 2016年1月
野口 和枝	: 2016年1月
秋吉 潤弥	: 2017年1月
松葉 千波	: 2017年2月
伊藤 久華	: 2017年2月
前田 克彦	: 2017年2月
畦地 美里	: 2017年2月
鶴田 美穂子	: 2017年2月
有田 優介	: 2017年2月
後藤 正喜	: 2017年2月
村田 大世	: 2017年2月
岡 美里	: 2017年2月
椎野 都	: 2017年2月
橋本 正弘	: 2017年2月
林 亜湖	: 2017年2月
藤永 由紀	: 2017年2月
酒井 大和	: 2017年2月
田中 純子	: 2017年2月
澤田 トヨ子	: 2017年2月
齊藤 紀子	: 2017年2月

<休会者>平成28年4月1日～平成29年3月31日

坂本 美樹
関 真由子
宮原 景子
田丸 千尋
松村 美幸
大賀 稜
神谷 沙和子
久保 瑠美
下村 麻衣
千田 綾子
園田 みのり
筑木 三香
萩原 園子
萩原 裕章
平賀 由美子
安永 知代
川嶋 宏子
松元 佳子
衛藤 まき
木部 貴子
野々下 尚子
野元 靖子

会員の皆様へ

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もごございます。

異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入ください。

異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ(<http://www.fuku-ot.org/>)へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

TEL 093-952-7587

編集後記

新年度が始まりました。第51回作業療法士国家試験の合格率は87.6%となり、今年も新たに5,344名の作業療法士が誕生しました。今は養成校のカリキュラムの中に生活行為向上マネジメント(MTDLP)が組み込まれるようになっていきます。今後、入職する作業療法士は生活行為向上マネジメント(MTDLP)を学んだ上で臨床に臨むことになります。そのため、現場の作業療法士も生活行為向上マネジメント(MTDLP)の知識と技術を身につけておく必要があります。生活行為向上マネジメント(MTDLP)に対しては様々な厳しい意見があります。しかし、成果や効果が見えにくい作業療法士という職種にとって生活行為向上マネジメント(MTDLP)は他職種に専門性を示すのに効果的なツールの一つです。また、対象者と協働して課題に向き合うことができるツールでもあり、作業療法を効果的に進めることができます。今年度は各ブロックで生活行為向上マネジメント(MTDLP)研修が積極的に行われます。作業療法の知識と技術を高めるために参加してはいかがでしょうか。

会報が届く頃には福岡県作業療法協会のウェブサイトがリニューアルされていることでしょう。随時、会員のみなさまのご意見をお待ちしています。今年度も広報部一同、会員のみなさまとともに作業療法啓発のため努力して参ります。よろしくお願い致します。

(許山)